

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
（分担研究報告書）

全国がん登録の利活用に向けた学会研究体制の整備とその試行、臨床データベースに基づく
臨床研究の推進、及び国民への研究情報提供の在り方に関する研究
研究分担者 岡本高宏・東京女子医科大学 内分泌外科・教授

研究要旨（甲状腺がん登録事業の現状と将来）

日本甲状腺外科学会が2007年から休止した甲状腺悪性腫瘍全国登録は、日本内分泌外科学会が2015年からNCD症例登録に実装することにより、再開された。そのデータの利活用はわが国の甲状腺がん診療の質向上に不可欠であり、さらにデータに基づく有益な情報を広く国民に提供することは専門職集団としての責務でもある。その遂行に障壁となる課題は多いが解決に向けた不断の努力を重ねることが肝要である。

A. 研究目的

- (1) 甲状腺がん登録作業を推進する。
- (2) 甲状腺がん登録のデータを活用し、
①わが国の手術症例の現状を明らかにする、
②。予後情報を含めたエビデンスの創出を推進する。
- (3) (2) の情報を広く公開する。

B. 研究方法

- (1) 日本内分泌外科学会の甲状腺がん登録に関する規定内容を参照するとともに課題を抽出し、対策を検討する。
- (2) 甲状腺がん登録についてNCDと協議する。

C. 研究結果

1. 甲状腺がん登録は一般社団法人 National Clinical Database に登録し、データ管理及びデータ分析を依頼している。甲状腺悪性腫瘍（濾胞性腫瘍を含む）の登録数は、およそ 9,500-10,000 例である。
2. 甲状腺がん登録に予後データを含めるため、各施設からの予後データ登録のためのシステム構築について、NCD 事務局および NCD でのデータ管理を実質的に担当されている慶應義塾大学医学部 医療政策・管理学教室、山本博之先生と協議を継続することにした。
3. 症例登録内容の正誤確認については実施しておらず今後の検討課題である。
4. 登録事業に関する学会内での課題として耳鼻科や頭頸部外科は学会としてNCDへの登録を推進する意向がなく、登録実績がないことが挙げられる。また、現状では非手術症例（甲状腺微小癌や未分化癌など）の登録されておらず、今後の課題である。
5. 登録データの利活用として NCD 事務局と連携し、アニュアルレポートの作

成を行っている。本作業は2020年2月の時点で COVID-19 の影響により中断していた。その後、断続的に事務局と交渉を行ってきたが、2022年3月のミーティングで方針を確認し、作業を再開した。

6. 登録に関して学会内に明文化された規定はない。また、臨床研究の実施に関しても規定はないが、NCD 事務局とも協議し、わが国の甲状腺腫瘍診療ガイドラインの検証を目的とした臨床研究を嚆矢として規定の具体化を進めている。
7. 登録データを活用した一般国民向への情報提供に関しては具体化しておらず、今後の課題である。

D. 考察

甲状腺がん登録は NCD に手術症例を組み込むことにより推進されてきた。日本全体の症例がカバーされているとは言い難いが累積で数万例を超える大規模データとなりつつある。その利活用と一般国民への情報提供の制度整備をさらに進める必要がある。

E. 結論

日本内分泌外科学会は甲状腺がん登録事業を構築してきた。今後その意義を国民とともに共有し、有効な活用に向けた体制を整えてゆく必要がある。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表
1. Ito Y, Onoda N, Okamoto T. The revised clinical practice guidelines on the management of thyroid tumors by the

- Japan Associations of Endocrine Surgeons: Core questions and recommendations for treatments of thyroid cancer. *Endocr J* 2020;67(7):669-717.
2. Abe K, Ishizaki U, Ono T, Horiuchi K, Kanaya K, Sakai S, Okamoto T. Low-dose radioiodine therapy for patients with intermediate- to high-risk differentiated thyroid cancer. *Ann Nucl Med* 2020;34:144-151.
 3. Yoshida Y, Horiuchi K, Okamoto T. Patients' view on the management of papillary thyroid microcarcinoma: active surveillance or surgery. *Thyroid* 2020;30(5):681-687.
 4. Okamoto T, Eguro Y, Yoshida Y, Horiuchi K. Radioactive iodine treatment of papillary thyroid carcinoma in Japan. *Gland Surgery* 2020;9:1698-1707.
 5. Maki Y, Horiuchi K, Okamoto T. Fatigue and quality of life among thyroid cancer survivors without persistent or recurrent disease. *Endocr Connect* 2022 Feb 28;11(2):e210506.
- 24 回日本臨床内分泌病理学会学術総会 . 2020.9.25-26: 東京.
5. 岡本高宏 . 予後因子の話をどうするか？：甲状腺がんを例に. 第 24 回日本臨床内分泌病理学会学術総会 . 2020.9.25-26: 東京.
 6. 岡本高宏 . 専門医教育セミナーI「世界の甲状腺腫瘍診療ガイドラインにおける日本の立場」. 第 64 回日本甲状腺学会学術集会, 2021.11.18-20, 東京
 7. 岡本高宏 . シンポジウム 16「甲状腺境界悪性病変の診断と意義：細胞診不確定の病変に対する分子診断の可能性」. 第 94 回日本内分泌学会総会, 2021.4.21-24, 高崎.
 8. Takahiro Okamoto. Special Lecture: Learning Patients' View through Research and Practice in Endocrine Surgery. 2022 Annual Meeting of the Taiwan Surgical Association. 2022.3.13, Taipei (WEB).
- H. 知的財産権の出願・登録状況
(予定を含む)

1. 特許取得
なし

2. 実用新案登録
なし

3. その他

総説・著書

1. 岡本高宏 . 甲状腺腫瘍. 今日の治療指針 2021 (福井次矢、高木 誠、小室一成編) . 医学書院 2021, pp 810-811.
2. 岡本高宏 . 甲状腺良性腫瘍. 新臨床内科学 (矢崎義雄編) . 医学書院 2020, pp 894-895.
3. 岡本高宏 . 甲状腺悪性腫瘍. 新臨床内科学 (矢崎義雄編) . 医学書院 2020, pp 895-897.
4. 岡本高宏 . 頸部、標準外科学、第 16 版 (田邊 稔、池田徳彦、大木隆生編) . 医学書院 2022, pp 267-282.

学会発表

1. 岡本高宏 . 甲状腺癌診療ガイドラインのエビデンスをみる (教育講演) . 第 62 回日本甲状腺学会学術集会 . 2019.10.10-12. 前橋
2. 岡本高宏 . 甲状腺癌に対する標準的治療方針 (適塾セミナー) 第 119 回日本外科学会定期学術集会. 2019.4.18-20. 大阪
3. 岡本高宏、小野田尚佳、伊藤康弘. 甲状腺腫瘍診療ガイドライン：診療ガイドラインの課題と未来 (ワークショップ) 第 119 回日本外科学会定期学術集会. 2019.4.18-20. 大阪
4. 岡本高宏 . シンポジウム「疾患データベースにおける病理学的データとその利活用」: National Clinical Database. 第